

最近ガザで起こっている人道的惨状に対する英国ソーシャルワーカー協会の公式声明

これは、英国ソーシャルワーカー協会による最近のガザにみられる人道的惨状についての公式な声明である。

国連は最近のイスラエル政府の行動を明確に非難している。それゆえ、われわれも今こそソーシャルワーカーの国際コミュニティを含むすべての国際コミュニティが断固とした行動を起こすべきであると信じる。

ガザの住民の大部分は難民であり、われわれは、IFSW の難民に関する政策提言が述べている「ソーシャルワーク専門職は、難民がみずからの窮状に反応するときに、その責任を分かち合うつもりである」の 1 節を思いだしている。ガザのソーシャルワーカーは自分たちの責任を果たしている。その例としては、即時に対応できるようなパレスチナ・トラウマ・センターを始めた。しかし彼らは絶望的ともいえる困難な状況の中で働いていて、多くの支援を必要としている。世界中のソーシャルワーカーは、ソーシャルワーカーとしての自分たちの責任に基づいた行動を起こすべきである。

それ故に、われわれは IFSW がこの惨状に対して、7月28日と8月2日の声明で応答することにより指導的な役割を果たしたことを歓迎する。最新の声明で IFSW は、会員がそれぞれの自国でキャンペーンを行うことを求めている。IFSW のその声明は、BASW が英国のこの地で自分たちの声明を出すことについての同意を与えている。

われわれは、パレスティナ・ソーシャルワーカー・サイキロジスト協会 (PUSWP) の専門職の仲間たちと連絡を取り合ってきたが、かれらは、われわれが英国のソーシャルワーカーとしてその立場をはっきりさせることにより自分たちを支持してほしいと求めてきている。われわれは喜んでそうするつもりであり、パレスティナの仲間たちとの連帯を築きたいと考える。

英国ソーシャルワーカー協会は、イスラエルのガザに対する攻撃とパレスティナ国の不法な占領に怯えている IFSW の仲間たちに連帯する。一方で、市民に対する無差別な爆撃やイスラエル政府軍の介入の大きさや、特に UNWRA 学校の爆撃やおそらく安全と思われていた場所で眠っていた子どもたちの殺害などはいかにも不均衡が明らかである。ガザで行われている人権侵害がとくに一般市民の間での死者や負傷者をますます増加させていることに対して恐れを抱いている。われわれはイスラエルが人々の民家や病院や浜辺で遊んでいる子供たちさえも攻撃していることを非難する。

われわれはイスラエルが攻撃を中止し、ガザの封鎖を解除し、イスラエル軍によるパレスティナ領地の占領を終わらせることを要求する。

われわれはイスラエルのソーシャルワーカー協会が行動を起こす特別な責任を負っていると信じている。また、彼らがイスラエルやその占領下の外国で聞かれる、政府がガザの住民に与えている苦痛に対して抗議の声を上げるように勧告する。

われわれは、ウェスト・バンク (ヨルダン川 西海岸) のベイト・ウマー在住で、国際児童防衛 (パレスティナ支部) に勤務するソーシャルワーカーのハシム・カーダー・アブ・マリア氏が死去したことを聞き深い悲しみと怒りを感じている。彼はガザのイスラエルによる暴挙に抗議する平和的なデモ行進に参加している最中にイスラエル軍により射殺された。ハシム氏は英国ソーシャルワーカー協会 (BASW) の会員が訪問した時に、受け入れてくれた PUSWP のヘブロン支部の立ち上げに尽力した人物である。ハシム氏の家族と彼のソーシャルワーカーの同僚たちに心からの哀悼の意を表す。

われわれは英国のソーシャルワーカーとして、パレスティナ国家の占領や最近ますます激しさを加えているイスラエル政府による攻撃に関係して、われわれの政府や関係機関に対してもっと大きい関心を寄せなければならない。英国政府が非常に均衡を欠いたイスラエルの攻撃を非難するように要求し、またガザの封鎖とパレスティナ国の占領を止め、イスラエルに対するあらゆる武器の販売を中止するように要求する国連のすべての働きかけを支持する。

われわれは選挙で選ばれた代表者たちに直接の接触を試みるであろう。またBASWのメンバーであるなしにかかわらず、ソーシャルワーカー一人一人が同じような何らかの行動を起こすことを期待している。

われわれはこの地に平和が訪れる日を待ち望み、人権と社会正義の原則を標榜するソーシャルワーカーとして、そうした結果を得るための自らの役割を果たすことができると信じている。

ガイ・シェナン (BASW 会長)

マギー・メロン (BSW 副会長)

ブリゲジェット・ボブ (担当役員)

イスラエルソーシャルワーカー協会の声明

戦争は常に恐ろしいものであり、ルーズ・ルーズ（双方負け）の状況である。

ソーシャルワーカーは自分たちが置かれている状況を簡単にどうこうできるものではない。

われわれはどんな時にも人々のニーズにこたえるものである。イスラエルではソーシャルワーカーは昼夜、国内のいたるところでおこなわれているテロ集団ハマスによるロケット爆撃の犠牲者たちのために働いている。ガザ地区のソーシャルワーカーたちは当然のこととして、ガザの住民の苦しみをなくし、負傷者や病人を助けるために昼夜働いている。人々が出来るだけ早く日常の機能を取り戻し、敵意を終わりにするために、かれらの回復力を強め、人々がこの恐ろしい時を克服できるようにかれらの強さを見出せるような方法を用意することが、ソーシャルワーカーの役割であり義務であると考えている。

昨日、一か月に及ぶ戦闘とロケット攻撃の後に、最初の停戦があり、それが続くことが期待される。イスラエルの軍隊は全てガザ地区から撤退した。葛藤の当事者たちはやっと長期間に及ぶ停戦についての交渉を始めた。イスラエルソーシャルワーカー協会は、この日が、双方が永久に国境から撤退し、破壊されたインフラが再建され、戦争により追われたすべての人々の生活が復旧し、パレスチナとイスラエルに長期的な経済的成長をもたらされる最初の日となることを希望している。われわれは、暴力による破壊の循環を断ち切り、その地域のすべての市民に尊厳と自己決定のある生活を可能とにさせるような全体的平和の最初の一步が、二つの国民のために、この二つの国家に与えられることを期待している。

この目的を達成するためには、すべての関係者が他者の基本的な権利を認めることが必要である。必要なことは、相互の尊敬と信頼を発達させることであるが、まさにそれが今日欠如している。

それゆえに、われわれは、パレスチナの仲間である PUSWP に呼び掛けたい。われわれとの対話をすすめ、そこで専門的問題についての話し合い、草の根レベルでイスラエルとパレスチナの信頼と理解を築いていこうではないか。

われわれは イスラエルとパレスチナの政治的リーダーに対して、地域の民主主義を発展させ、パレスチナ人とイスラエル人がともに自由と尊厳をもって平和のうちに生活できるような平和的合意に至ることを要求する。

ガザの人的惨状に関する IFSW アジア太平洋地域会長と会員代表による公式声明

この地球上には多様な言語と文化と宗教と民族の人々が生活し、自然的また人為的な世界の惨状を体験している。われわれをひとつにつなぐものは、われわれはソーシャルワーカーであり、すべての人の福祉のために働いているということである。その核となる価値は人権と社会正義であり、平和的手段によりこれらの価値を築くことに努力している。

信頼関係を築き、この世界を平和な場所にしていけるような、人間関係の力に信頼を置いている。平和が脅かされているこの時に、ソーシャルワーカーが連携して、共に働き、この葛藤に対する平和的な解決を図らなければならない。

ガザ地域に関しては異なる見解をもつ人がいること、またこの声明が複雑でデリケートなものであることをわれわれはよく理解している。しかし、世界のこれらの市民に平和的な生活状況が与えられることこそがわれわれの最大の関心事である。ガザの戦争状況において一般市民、とくに弱者といわれる人々が攻撃の対象となり、殺害され、虐待や、危険や恐怖にさらされている。すでに膨大な数の人命が失われている。このような戦争は直ちにやめるべきである。葛藤状況にある人々に日々かわるソーシャルワーカーとして、われわれは関係者すべてに対する尊敬と敬意をもって行われる恒久的な平和のための話し合いがぜひとも必要であると信じている。一刻も早く戦闘を中止し、このような残虐行為を決して望んでいない一般市民を攻撃し殺害することを正当化するような言い訳を断じて許してはならない。

8月6日、広島市長である松井一實氏は、平和記念式典において次の平和宣言を述べた。このメッセージの本質はガザの現在の状況にあてはめられることができると考える。

子どもたちから温かい家族の愛情や未来の夢を奪い、人生を大きく歪めた「絶対悪」をこの世からなくすためには、脅し脅され、殺し殺され、憎しみの連鎖を生み出す武力ではなく、国籍や人種、宗教などの違いを超え、人と人との繋がりを大切に、未来志向の対話ができる世界を築かなければなりません

現実世界でわれわれは自分たちの歴史、文化、民族、宗教、風俗・習慣などを超えて未来に目を向け、平和な共存を求めていかなければならない。ガザで危険にさらされていて、政治的な解決を探っている両者は、即座の停戦を大至急模索すべきである。停戦はその地域のすべての人々の社会的、経済的な平等にもとづく恒久的平和の出発点になるにちがいない。

われわれソーシャルワーカーは、この葛藤の両サイドにあるワーカーに悲しみの思いを表すとともに、子どもや女性や高齢者や援助専門職の仲間たちをも含む市民の生命をこれほど多く奪った最近の状況に強い憤りを覚えている。こうした野蛮な行為にたいしてはどのような言い逃れも許されるものではない。

われわれは、ソーシャルワーク実践により、平和の促進のために努力しているパレスチナとイスラエルの仲間たちを支持する。この原則は、葛藤の渦中にある人々との間で、彼らが尊敬や尊厳や希望を強めることができるような関係づくりを行うということについてもあてはめられる。建設的な対話に沿った活動が、平和と、世界のこの場所でのワーカーたちと市民の肉体的と精神的なトラウマの終結をもたらすものになることを願ってやまない。

木村真理子 IFSW アジア太平洋地域会長

ローズ・ヘンダーソン IFSW アジア太平洋地域会員代表

イスラエルとパレスティナの葛藤に対する IFSW の北アメリカ地域による声明

ソーシャルワーク専門職の根拠は平和と社会正義の原則に基づくということである。北アメリカのソーシャルワーカーは、場所や国籍とは関係なく人間の発展と福利を優先するというわれわれが大切にしている倫理綱領において団結している。それゆえに、IFSW の北アメリカ地域は、現在進行中のイスラエルとパレスティナの葛藤について自分たちの意見を述べる倫理的責任を強く感じている。

そこで、この声明により、国際社会のリーダーたちが、停戦合意に至っていない現実に対して、人間の尊厳と全ての人々の自己決定権に沿った平和的な解決を見出すための行動をとることを要求する。

われわれは専門職として 平和と経的社会的正義への侵害に対する抗議とそれを阻止することについて、非暴力的で平和的な解決と改善を強調してなされるあらゆる努力を支持する。それゆえにこの声明においてわれわれは国際社会のリーダー達が最近の合意できなかったことについて、人間の尊厳とすべての人々の自己決定権に沿った平和的な解決を模索するように要求する。

そのために、われわれは、交渉、報道、和解などに関するソーシャルワーク専門職の手段を含む、国際社会の介入と政治的アプローチを支持する。国連や国際連携の諸機関が参加することは、現在の葛藤を解決し、平和な過程をもう一度取り戻すための建設的で協力的な手段を見出すための重要なステップになるに違いない。

IFSWの北アメリカ地域は、国際的リーダーに対して彼らがこの呼びかけに直ちにこたえて行動を起こすことを切望する。なぜならばイスラエルとパレスティナの両国の人々の尊厳と価値は早急で実効性のある国際的な対応を必要としているからである。

われわれはこの地域ですべての人々に自由の権利があるという原則に立った平和のビジョンを求めている。IFSWは自由と社会的経済的平等が持続的平和の前提であると考えている。

国際社会のリーダーたちが平和のための共通基盤を作るために誠実な努力を模索しているのであれば、われわれ IFSW の立場は、その国に生活の質が備わっておらず、すべての人によりよい生活のための平等な機会が与えられていない場所で、代弁者の役割を果たしている国際リーダーのパートナーとなることである。

モレル・キャイシー（北アメリカ代表）

ダレル・ウェーラー（北アメリカ 会員代表）

IFSWヨーロッパの声明：平和と自己決定のためのソーシャルワーク ー平和は道であるー

平和はすべての人間が自由と自己決定に至るための道である。すべての人は自由の権利を有し、自由は持続的平和の前提である。

ソーシャルワーカーは人権と社会正義の実現をその使命とする。それゆえ、人々の基本的欲求の達成を不可能にするようなあらゆる虐待と暴力に反対する。暴力的葛藤の状況は、ほとんどの場合、その結果として負傷、死、罪のない無防備なあらゆる年齢の市民の権利の侵害をもたらす。

IFSWのヨーロッパ地域は、ヨーロッパ全域のすべてのソーシャルワーカーと会員である団体に対して、パレスティナとイスラエルの終わりのない葛藤に何十年もさらされている中近東に変化をもたらすためのIFSWによる地球規模のキャンペーンに参加するように呼びかける。停戦こそが、その地域のすべての人々の社会的経済的平等に基づく持続的平和のビジョンに向かっての過程の一步になるに違いない。

ソーシャルワーカーは世界中のテレビで放映されている最近の残虐さを目にするにつけて、国連に対して適正規模の平和維持軍をガザに送り、両国が兵器を用いて市民が避難しているセンターや場所を標的にして無差別に攻撃しているのを止めさせるように要求する。そうした行動は当然ながら、人道援助や基本的なサービスの復旧と住宅や地域の再建と同時に成されるべきではない。またもちろん長期にわたるこの葛藤の永続的な解決を確実にするための交渉も必要である。

ソーシャルワーカーは多様性の中で団結している。ソーシャルワーカーは、すべての人々がその歴史、文化、宗教、民族などに関係なく尊敬されるより良い世界のための方策を見出そうと努力している政治家とその他の決定権のある人々を支援する使命と義務を負っている。

われわれはパレスティナとイスラエルのわれわれの仲間たちがソーシャルワークの原理に基づいて平和を実現しようとして行う努力を支援する。

暴力はさらなる暴力を生み、人権は傷つけられる。

「平和への道はない：平和こそが道である」マハトマ・ガンジー

クリスティナ・マルティンス（IFSWヨーロッパ地区会長）